

令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中学園	校長	渡部 光昭	生徒指導主事	岡西 孝太
取組事例名	『府中学園駅伝大会』～あったかいつながりをつくる～				

1 取組の設定	
取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
・1～9年生で1つのチームを組むことで、学年を越えたあったかいつながりを図る。 ・集団の一員としての役割を与えそれを果たすことで、責任感・自己肯定感や自己有用感を向上させる。 ・8年生にリーダーをさせたり、運営をさせたりすることでリーダーとしての自覚をもたせる。	・役割意識を持ち自分の責任を果たすことで自分に自信をもつことができる児童生徒を育てる。【責任感・自己肯定感】 ・学園のリーダーとしての自覚をもち、学園を引っ張っていくことができる児童生徒を育てる。【リーダー性・コミュニケーション能力】



2 展開	
取組の具体的内容	取組の創意工夫
【駅伝大会の概要】 ・1チーム18人（1～9年生混合）の30チーム対抗戦とする。 ・ステージごとの3部構成で実施する。 ①第1ステージの部（1～4年生）②第2ステージの部（5～7年生）③第3ステージの部（8～9年生）＊区間別に走る距離が違う ・各ステージの部の順位で獲得した得点の合計でチームの総合順位を決定する。 【絆を深めるための具体的な取組】 ・年度初めに1～9年生の縦割り班（30班）を編成し、年間を通して縦割り班での活動を行う。（5月遠足、9月・11月仲良し班遊び） ・大会前にチーム会を実施し、目標や走順を話し合っ決めて、襷にチーム全員の名前やメッセージを書いたりした。 ・不登校（傾向）やケガ・病気等で参加できない児童生徒が、応援・運営・掲示物作成など様々な方法で関わっていることを全体場で紹介した。	生徒にめあてをもたせるために ・練習前に今日の目標を個人で立てさせた上で練習を行う。 ・不登校児童生徒や、集団に位置付きにくい児童生徒があらゆる方法で参加し、つながるように選択肢を示し目標をもたせる。 生徒の意欲を高めるために ・駅伝大会を行う目的や価値等の事前指導を十分に行う。 生徒の頑張りを認め、価値付けるために ・大会後にもチーム会を実施し、頑張ったことを共有したり、上級生から下級生にねぎらいの言葉をかけたりした。 ・お互いに感謝のメッセージを送り合う。 ・運営として裏方の仕事や、リーダーとしてチームをまとめてくれた8年生に感謝のメッセージを全学年から送る。



3 成果と課題		
アンケート項目	肯定的回答（1学期）	肯定的回答（2学期）
自分は、様々な行事で役割を果たすことができています。	73.9%	78.7%
自分は、様々な行事で達成感を感じることができています。	86.9%	87.5%
自分は、あこがれの先輩や、こんな人になりたいと思うような人がいます。	82.1%	71.4%

○行事の中で児童生徒に自己決定の場面やリーダー等の役割分担を与えることで主体的に取組み、達成感を感じることができている。

●上級生が走る時に授業があり、その姿を直接見たり、応援したりすることができなかったため、上級生に対するあこがれを抱かせることがあまりできなかった。